

大垣市環境市民会議

NEWS(No.15)

会員のみなさん、お元気ですか？台風 23 号の襲来で、大垣市内でも床上・床下あわせて、700 戸あまりの浸水被害がでました。全国でも甚大な被害が報告されていた矢先の、今回の中越大地震の発生で、私たちは改めて自然の人の及ばぬ大きさ、恐ろしさを痛感しました。自然の脅威に対して私たちは極めて無力ですが、だからといってただ無力を嘆いてばかりはいられません。私たちに何ができるか、何をすべきか、まさに「暮らしを変えて、未来に夢を」たくせるように一人一人がしっかりと考えたいと思います。今回は、第一回 シンクタンクの議事内容をダイジェストでお届けします。今後も随時、会員のみなさんへの情報として発信していきますので楽しみに！！

第一回 シンクシンク

日時 平成 16 年 9 月 28 日(火)15:00～17:30

場所 大垣市情報工房 会議室 3

出席者 森孝之・森誠一・矢田貝真一・大橋妙子・小林良二・佐々木愛子(順不同・敬称略)・事務局

議事内容ダイジェスト

(事務局)市民会議の活動への提案・・・現在、会員が固定化し増員できない、活動が低迷状態にあるので、これを活発化していく方策を含めて、環境市民会議の進む方向や具体的な活動への提案をいただきたい。

行政への提案・・・環境行政、諸施策への具体的提案、特に緊急的な課題とそれに対処する方向性、方策についての提案をいただきたい。

「大垣市環境基本計画」が全ての基本となるので、6 つの基本目標と個別目標、これに対応する環境施策について、その進捗状況をチェックしながら、上記の提案をいただきたい。

(森会長)環境市民会議は、行政も加わった団体である。そういう意味で、それなりの動き方ができる、つまり、市民の総意と行政の意向が一致する場所として機能できるとよい。

(森誠一)シンクタンクは、方向性を提示するという場所でありたい。提示する場合、その活動の根拠となること(たとえば、大垣らしさとか)、付随してくる 数値、やったことの評価(たとえばアンケートを元にしたものなど)といったことを示しながら進めないといけない。また、緊急性、特殊性、話題性のある活動 テーマの提示ということも必要。基本計画をベースとして、数値的目標と期限を設定し、シナリオを描きながら計画を出していくことが重要だろう。環境基本計画の進捗状況をチェックするという場合、そのチェックするための材料となるものがあるのかないのか、という点が気になる。

(小林)岐阜市では、大量の産業廃棄物の不法投棄があって、市民は大変なショックを受けている。環境問題については、小さな問題も見逃さない、という姿勢が大切。今、人材バンク登録を進めているが、ある程度整理ができればファシリテーションの学習をしたいと考えている。市民というのは、特に大きな問題がない限り冷ややかなものだ。大きな問題が隠れていないか、チェックを常にすることが大切で、このシンクタンクという場では、オフレコの情報も全部出して、対処すべきことにきちんと対処していくようにするとよい。

(佐々木)学校の環境部会の先生方の研修で、環境学習を特殊なものと考えず、環境という素材を通して子どもたちに何を伝えたいかということを考えて、また肩の力を抜いて進めていきたいと思いますということをお話してきた。人材バンク登録では、それぞれに多忙な会員のみなさんなので人材育成の難しさを感じるが、一人一人の専門性を高めながら、しかも環境市民会議からの講師派遣という特色をつくっていきたい。人材派遣の適正さやプログラムの内容的なチェック機能をシンクタンクにお願いできたらと思っている。

(矢田貝)環境基本計画は大変よくできているので、この一つ一つを精査して、これを十分に活かすことが大切だろう。子どもたちの環境学習をうまく進めることは大変有効で、学校の現場と基本計画などの実施とのパイプ役を環境市民会議が果たせると良いと思う。

(大橋)行政が何を望んでいるのか、という点を市民に対してもきちんと示していくことは、環境行政では大切ではないだろうか。

(窪田)行政が、環境市民会議の活動にどこまで、どんなふうに関わっていけばよいのか、ということを考えている。そのあたりの示唆をシンクタンクからいただけたらありがたい。

(森会長)環境という問題について、進むべき確かな方向をシンクタンクで示していくということを目標にしたい。大垣らしさ、という点で言えば、やはり「水」というテーマが一番に挙がる、これを何か柱を決めて集中的にやれるといいと思う。また、市民の努力がきちんと報われるというシステムなり、何かを作っていくことは必要だろう。人と地球に優しいということは、自分に対しては厳しいということを知っておかなければならない。環境市民会議がしかけて、市民の総意で進めるような運動、活動(たとえば「水」をテーマとするような)を提案したい。また、活動や運動、あるいは施策を進める場合に、特に行政のような他の組織に対して対外的な説得力を必要とするので、他に対して納得できる議論や提案を示していくことをこのシンクタンクでできたらよいと思う。

(森誠一)このような活動を進める場合、大義名分的な方向性、具体的な方策やスケジュールといったものが重要になってくる。そういうものを示していけると良い。環境基本計画で挙がっている目標や施策はもちろん、今後新たに出てくる課題もあるので、それらを踏まえていくことが大切。現状では、「水都大垣」という看板ははずさざるを得ない状況である。今緊急の課題として「水都」の復活があるだろうし、「水都」らしいモデル的な場所を造ってそこに集中し、一定期限をもつ

たプロジェクト形式で、何かを形にしていくと良いと考えている。色々な人たち、関心のない人たちも集められる、連携を進めることが鍵となるだろう。

(森会長)「水」という点で言えば、私は現在の大垣については洪水も心配している。大垣の水は、良い方向に向かえる素材であると同時に、危機の素材でもある。市民全体の問題としてとらえ、危機をプラスに変えることが大切だ。市民のパワーを一つにできるテーマとして「水」は重要だ。「水」とあわせて「緑」というものもある。山が弱体化している、ということも忘れてはならないこと。

(小林)地球の環境というのは、今はもう「危機管理」の時代に入っている。「防災」ではなく、「減災」という考え方で望むことが必要だ。大垣の水門川で言えば現在のDランクをせめてCランクに上げれば、災害時に簡易処理で給水用の水として使える。

(窪田)どんぐりの里山を育てようという計画を進めているが、山の力という点について、広葉樹と針葉樹という比較では広葉樹のほうが山崩れは起こさないと いうことが言える。環境市民会議で新しく「水門川いきいき」プロジェクトが立ちあがった。「水」をめぐる複雑な要因に対して、水質という面からアプローチ したい。市民が進める浄化プロジェクト、市民による河川健康診断員というような制度の立ち上げを進めたい。

(矢田貝)環境基本計画でも、「水と緑」というテーマが明確に示されている。防災という面からも、これははずせないテーマだと思う。環境問題について考えることはできるが、これを一人一人が自分の日々の暮らしの中におとした時、暮らしをどう変えられるか、どう変えていくのか、という点が難しいが、それが今 求められていると思う。

全体のまとめ 次回への課題

- ・考え方として、市民全体の利害がからむような問題、みんなが手をつないで進めたいようなテーマと、個別の利益に還元されるような問題との二通りに分けて考えることが必要、後者については特に個人が責任を持っていくことが必要で、法規制などの検討もしてもらえるようにすべきではないか。
- ・「水」を切り口としてどういう方向の出し方ができるか、次回までの課題として次回具体的に討議する。
- ・「水」以外に、緊急性、話題性のあるテーマがあるかないか、次回までに考えて、あれば次回検討事項として出していく。
- ・「水」に関わって現在既に活動している市民活動について、ピックアップしておくこと。
- ・環境市民会議の動き方への助言となるようなことを、出していけるようにする。

議事録作成 事務局 奥田陽子

第2回 シンクタンク 開催予定

10月26日(火) 15:00~17:30

大垣市環境市民会議NEWS 第15号

発行日 平成16年10月26日

編集者 事務局

発行者 大垣市環境市民会議

会長 森 孝之